教務通信「世界の真ん中」№３８

平成１６年３月１６日　教務係　山田洋一

呼びかけの練習で誰をほめてあげますか

子どもたちの姿勢も声の大きさも、声の方向もいい。
さて、誰をほめてあげますか？
私には、ほめる規準が相当明確にあります。
いつも第一にほめる子は、決まっています。
私が、一番にほめてあげるのは次のような子どもです。

一生懸命に取り組んだのに、失敗してしまった子ども

この子は、深く傷ついている可能性があります。
その心のフォローのためにほめてあげるのです。
そして、その子をほめることで、周りの子は感じるのです。
「先生は、一生懸命に取り組んでさえいれば、間違ってもほめてくれるんだ。失敗をおそれないで思い切ってやろう」と。
教師は、「結果より過程が大事」といいながら、実は結果がよかった子どものみをほめがちなものです。
それでは、活動が息苦しくなります。
一生懸命に取り組ませる。しかし、失敗には寛容であるというのが大事なポイントです。
ただ、私は、結果にも相当にこだわりを持っています。
何かしらの行事では、多少強引でも結果をひねり出さなきゃいけないと思っています。
特に厳しい指導をした場合はです。
なぜなら、つらく苦しい思いをした、その結果失敗したでは、いったい子どもたちは何のためにがんばったのかわからなくなってしまうからです。
子どもには、失敗経験も必要ですが、基本的には成功体験が次への意欲になるからです。
そして、そうした成功体験は、むしろ結果にこだわりすぎる練習よりも、失敗には寛容である練習方法の方についてくるのです。

余白埋め～もし若い先生に勧めるとしたらこの本～
向山洋一『教師修行十年』（明治図書）　板倉聖宣『仮説実験授業の ABC』（仮説社）
酒井臣吾『酒井臣吾の学校便り』（明治図書）　松本キミ子『絵のかけない子は私の教師』（仮説社）
岩下修『A させたいなら B といえ』（明治図書）鈴木敏恵『これじゃいけなかったの！？総合的な学習成功戦略ポートフォリオ評価プロジェクト学習』（学研）　野口芳宏『授業で鍛える』（明治図書）
築地久子『生きる力をつける授業』（黎明書房）　有田和正『追求の鬼を育てる』（明治図書）